

青少年の自立を 支える会 通信

第5号 平成10年4月25日

発行/青少年の自立を支える会
所在地/宇都宮市南大通り4-2-18
☎・FAX 028(651)0161
発行責任者/伊達悦子
編集責任者/福田雅章

一年のあしあと

運営委員長 曾根俊彦

早いもので、「初めてのつどい」を開催してから、もうすぐ1年になろうとしています。会員数も500名を超え、自立援助ホーム『星の家』の運営も軌道にのりつつあります。これもみな、会員の皆様のおかげと感謝にたえません。

これを機に、運営委員会の1年の活動を振り返ってみたいと思いますが、運営委員会は、会則にもあるように、「青少年の自立に関する相談・援助事業及び自立援助ホーム運営」をするために設置されており、役割としては「自立援助ホームの利用者にとって住みよい生活環境をどう確保するか。」「利用者の自立のために何が必要か。」、そして「ホーム長はじめ、ホームスタッフの働きやすい環境をどう整えていくか。」この3点ではないかと思っています。

運営委員は、現在11名、医師、弁護士、相談機関の専門家、施設関係者などで構成されていて、うち女性委員が3名います。委員会は、毎月第2火曜日に行っています。昨年、7月29日に第1回目の委員会を開催し、以降、現在までに10回の委員会が持たれました。

運営委員会の最も重要な仕事は、自立援助ホームの入退居に関する審査です。過去、6件(男4名、女2名)の審査を行い、全員入居という結果となっています。退居は1件で、まもなく男1名、女1名が近くにアパートを借りて自立する予定です。

その他に、相談事業の一環として平成10年2月7日「自立のホットライン」を開設しました。電話相談は、電話相談経験者がボランティアとして対応、毎週土曜日、午後3時から午後8時まで相談を受け付けております。開設当初11件の電話相談がありましたが、相談件数が伸び悩んでおり、現在ポスター等によるPRを進めていますので、皆様のご協力をお願いします。

また、研修活動への取り組みも、運営委員会の仕事の一つであり、電話相談員研修、宿直・調理ボランティア研修のほか、一般会員向け研修として平成10年2月15日に東京国際大学教授の小此木啓吾先生を迎え、講演とシンポジウムを行いました。突然の大雪となってしまい、予定した人数までは集まりませんでした。が、「黒磯事件」や「自立援助ホーム」についての活発な意見交換が行われました。

今年4月からは、新児童福祉法が施行され、「自立援助ホーム」が「児童自立生活援助事業」として制度的に認められました。運営委員会では、会でこの制度を利用できないかどうか検討をはじめました。この制度に該当すると、国・県の補助金を受けられるようになるなどの利点があります。

今後の課題としては、会の法人化の問題があります。運営委員会としては、財団・社団法人あるいは、社会福祉法人化の道を模索してきましたが、今、国会で、NPO法(特定非営利活動促進法)が可決され、法人化がより具体的となり、さらに検討を重ねています。

以上、運営委員会の活動を述べましたが、これからも会の「縁の下の力持ち」として、努力をしていきたいと思っています。

今後とも、みなさまのより一層のご支援をお願い申し上げます。



2月15日

『青少年の自立を支える会』研修会 レポート

青少年を取り巻く深刻な社会状況のなかで、いま一度、青少年の“自立”の意味を考え、自立の支援や自立援助ホームについての認識を深めることを目的に研修会が行われました。

午前中は、「社会に旅立つことが困難な子どもたちに — 社会的自立を支援するために」と題したシンポジウムが開かれました。大山千加さん（支える会会員）の進行により、4名のシンポジスト〔教育現場から小林幸正氏（宇都宮市立晃陽中学校長）、福祉行政から横松 晃氏（栃木県県南児童相談所副主幹兼判定指導課長）、地域援助から中村千恵子氏（ウイメンズコーディネーター）、支える会から星 俊彦氏（星の家ホーム長）〕からの報告及び討論がなされました。

午後は、東京国際大学教授の小此木啓吾先生により、「青少年の社会的自立を支援するために」と題した講演が行われました。シンポジウム及び講演の内容を簡潔に紹介します。

小林氏は、勤務する中学校の生徒の1割が養護施設から通う子どもであることから、学校生活に見られる施設の子どもの特徴を報告されました。そのうえで、自立援助ホームに求められる働きとして、①安らぎ（安楽、休息）の場、②羽ばたき（社会への送り出し）の場、③確かめ（経験の共有・施行錯誤）の場、の3点を指摘されました。

横松氏は、現代社会では、子どもが他者との関係づくりを行ったり、自己決定（自らで考えること）を行ったりするうえでのノウハウを得る機会が減少していると同時に、大人自身も自らの自立を認識できていない状況を報告されました。従って、在り来りの道徳教育（道徳論）と、一方での規制の強化（刃物を売ってはいけない等）の中間に、社会生活上のノウハウ・技術を伸ばせる機会を設けること、子ども中心の視点を多くの人が持つ必要性を強調されました。

中村氏は、機能不全家族の増加と、そうした家族が世代間の連鎖を進めるなかで、虐げられている女性や子どもの状況について報告されました。そうした家族に代わって愛情を与えることのできる、また自身を持って子と母を切り離すことのできる場の必要性を指摘されました。

また、課題に対しては、当事者と共に考えていくことが重要と話されました。

『星の家』を
支えるために

いろいろなグッズをくださ～い !!

☎ 028-638

4/19、県内のさまざまな市民活動を支えることを目的としたリサイクル・ショップ『あるか～な』が、宇都宮市一条にオープンした。とちぎボランティア情報ネットワークが運営するもので、①家庭のなかに眠っている衣類、子供用品、家具などを寄付していただき、②支援団体リストの中から支援をしたい団体を指定（『星の家』をよろしく!）してもらい、③益金が指定団体にわたるというシステムです。

すでに、『星の家』に対する支援金が集まっています。

寄付する方もボランティア、定員もボランティア、買ってくれる人もボランティア!!
いろいろなグッズがそろっています。みんなで利用しましょう!!

営業時間

11時



18時

(火曜休み)

フタ

星氏は、自立援助ホーム「星の家」での生活について報告されたうえで、そこでの職員の役割として、人間関係をつくる力を育てなおすこと（共に生活を送り、経験し合い、信頼関係をつくりながら）、他者に適切に依存できる力（自立をしていくうえでの条件）をつくること、を指摘されました。

そして、前向きに一緒に歩いてくれる大人が増えてくれることを呼びかけました。

小此木先生は、アップ・ツー・デートな議論を織りまぜながら、思春期・青年期の心の発達問題と教育についての対社会的な課題について話されました。

まず、中学生の心の問題については、その一番の課題として、分離不安、さびしさ悲しさを持ちながらの親離れ・自立と、それを補いまぎらわす同年代のグループ（仲間）集団の重要性について指摘されました。中学生以降の子どもの心のあり方としては、プライバシー感覚を育てることにもなる、自分だけの秘密の保たれる世界を確保することの必要を指摘されました。

また、親から離れていくけれども、そうした親離れを支えるのもまた親であり、子どもを受け止める度量（親心）の必要性を話されました。

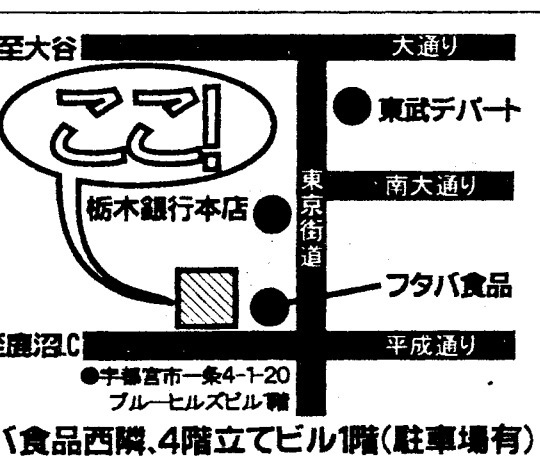
次に、高齢少子社会の進行を背景にして、次のジェネレーション（世代・人類）を育てる親らしい心の喪失化と、それに伴う母性愛の見直し・新しい育児観づくりの必要について言及しました。

同時に、「星の家」の取り組みも、そうした21世紀に向けた人類的な課題に答える一つの試みとして評価され、自立援助ホームにおける家族構造の再現に関して、（星さん）父母がそろっていることのメリットとして、①親離れしやすいこと、②逃げ場の役割、③男性・女性としてのモデル、という点を指摘されました。

以上、大変簡潔にまとめてまいりましたが、当日のそれぞれの先生方のお話の内容は濃く、とても有意義な1日であったことをここにお伝えいたします。

（加藤悦雄）

-7030



◆宇都宮陽東ロータリークラブから車の寄贈がありました!!

青のタウンエース(4WD)です。
便利になりました。
ありがとうございました!!

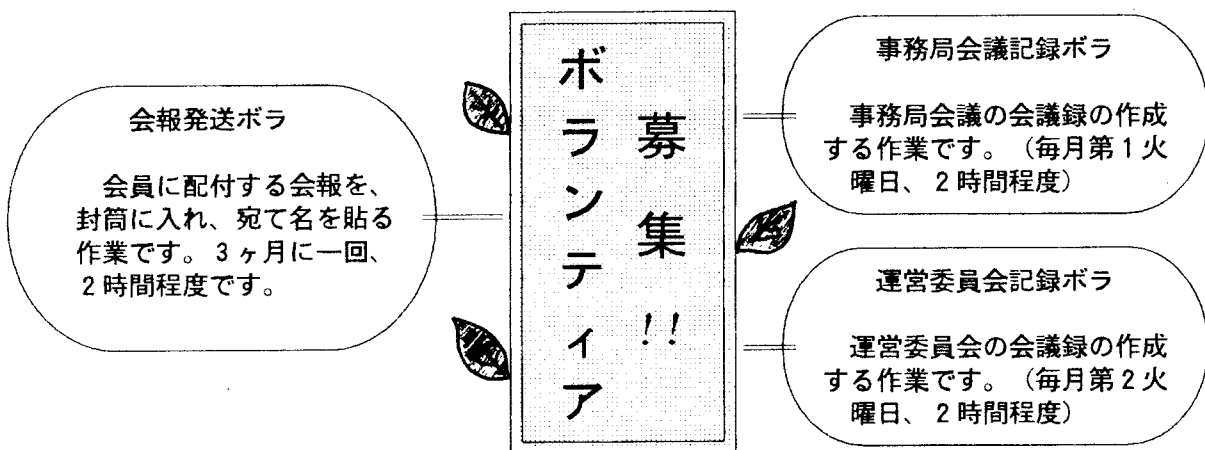


◆宇都宮ロータリークラブから寄付がありました!!
総額 301,000 円 ありがとうございました。

◆3/17 理事会を開催しました。平成10年度事業計画及び予算案についての審議がされました。

住み込みボラ、森下 亮さん 4/22 から !!

かねてより募集していた住み込みボランティアとして、日本青年奉仕協会から森下 亮さん(22)が派遣されました。星ホーム長によるとガッチリとした体格で、とても素直な印象とのこと。若いし、新しいエネルギーを感じるとも話しています。
来年の2月ごろまでの滞在となる予定ですが、どうぞよろしくお願いします!



総会の開催について

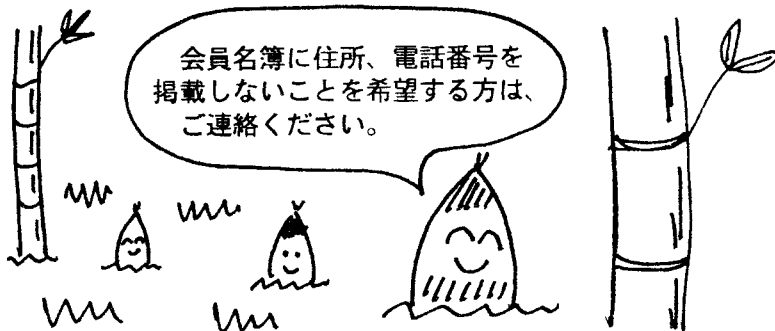
とき / 平成10年6月13日(土) 13:30 ~

ところ / 社会福祉教育センター

※ 駐車場が狭いので、
交通機関をご利用ください。

支援の輪 (1998.4.25 現在)

<input type="checkbox"/> 会員数	514 人
<input type="checkbox"/> 会費・寄附金	7,680,173 円
<hr/>	
前回 (1998.1.6)	
<input type="checkbox"/> 会員数	480 人
<input type="checkbox"/> 会費・寄附金	7,426,886 円



青少年の自立を支える会 事務局

〒321-0963 宇都宮市南大通り 4-2-18
自立援助ホーム「星の家」内
TEL・FAX 028(651)0161

- ★ 会員募集中! です。1口5,000円 [郵便振替/宇都宮 00140-3-366972 名義/青少年の自立を支える会]
- ★ スタッフ・ボランティア募集! どんなことでもお手伝いいただける方、お待ちしております。